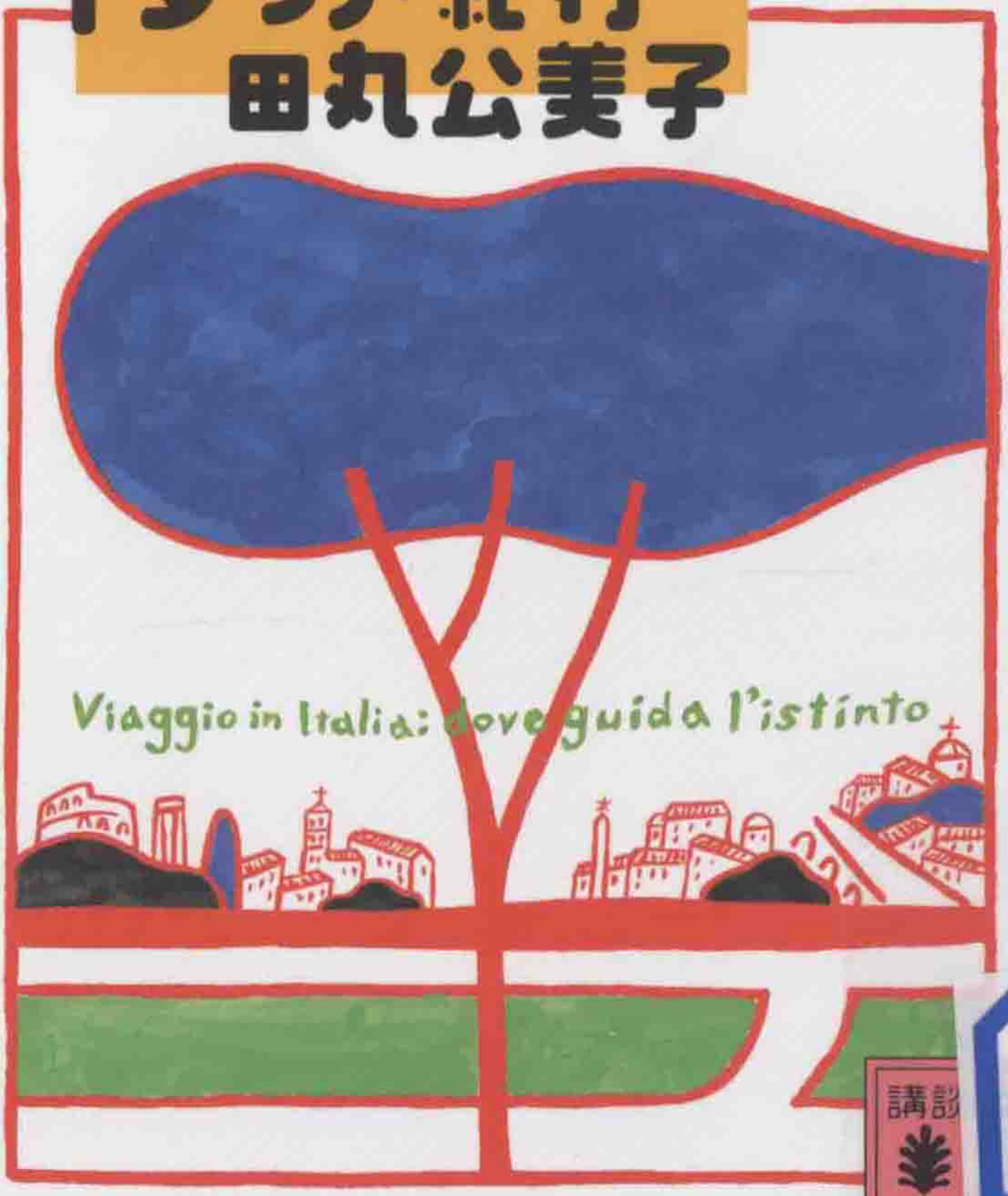
シモネッタの本能三昧イタリア紀行

田丸公美子



講談

講談社文庫

常州大学図書館
藏書章

シモネッタの本能三昧イタリア紀行

四丸公美子

講談社

|著者| 田丸公美子　イタリア語会議通訳、翻訳業。広島県生まれ。東京外国語大学イタリア語学科卒。親友の故・米原万里氏から授かった称号〝シモネッタ（シモネタの女王）〟に恥じない卓抜したユーモアセンスを武器に、痛快エッセイを執筆。著書に『パーネ・アモーレ　イタリア語通訳奮闘記』『シモネッタのデカメロン　イタリア的恋愛のススメ』（ともに文春文庫）、『目からハム　シモネッタのイタリア人間喜劇』（朝日新聞出版）、『シモネッタのドラゴン姥桜』『シモネッタの男と女』（ともに文藝春秋）など。

シモネッタの本能三昧（ほんのうざんまい）イタリア紀行（きこう）
田丸公美子（たまるくみこ）
© Kumiko Tamaru 2011

講談社文庫
定価はカバーに
表示してあります

2011年4月15日第1刷発行

発行者——鈴木　哲
発行所——株式会社　講談社
東京都文京区音羽2-12-21　〒112-8001
電話　出版部（03）5395-3510
　　販売部（03）5395-5817
　　業務部（03）5395-3615
Printed in Japan

デザイン—菊地信義
製版———慶昌堂印刷株式会社
印刷———慶昌堂印刷株式会社
製本———株式会社千曲堂

落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。送料は小社負担にてお取替えします。なお、この本の内容についてのお問い合わせは文庫出版部あてにお願いいたします。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

ISBN978-4-06-276928-0

まえがき……9
第1章 ローマ……13
その1 永遠の娼婦……14
その2 秘蔵の穴場……22
第2章 ミラノ……35
その1 最後のピエタ……36
その2 さらば栄光の日々……47
その3 歌麿、大活躍……63

第3章 ボローニャ……75
チョコでもお断り！……76
第4章 ルガーノ……87
金持ちはスイス国境を目指す……88
第5章 ナポリ……101
その1 終の棲家はカプリ島……102
その2 男たちのこだわり……120

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第6章 ヴェネツィア……133
その1 官能がうずく運河の街……134
その2 悲哀のゴンドラ……146
第7章 ヴェネト地方・ブレンタ運河……157
尽きぬ夫婦愛……158
第8章 フィレンツェ……171
その1 デカメロンな性欲……172
その2 苦い初夜……182

第9章　シチリア……195
その1　僧院の怪異……196
その2　燃えたぎる血潮……206
その3　パレルモの貴族……218
第10章　マテーラ……231
少年の笑顔……232
第11章　ペルージャ……243
熟年留学のすすめ……244
あとがき……258
解説　玉村豊男……269

講談社文庫

シモネッタの本能三昧イタリア紀行

田丸公美子

講談社

まえがき……9
第1章 ローマ……13
その1 永遠の娼婦……14
その2 秘蔵の穴場……22
第2章 ミラノ……35
その1 最後のピエタ……36
その2 さらば栄光の日々……47
その3 歌麿、大活躍……63

第3章　ボローニャ……75
チョコでもお断り！……76
第4章　ルガーノ……87
金持ちはスイス国境を目指す……88
第5章　ナポリ……101
その1　終の棲家はカプリ島……102
その2　男たちのこだわり……120

第6章 ヴェネツィア……133
その1 官能がうずく運河の街……134
その2 悲哀のゴンドラ……146
第7章 ヴェネト地方・ブレンタ運河……157
尽きぬ夫婦愛……158
第8章 フィレンツェ……171
その1 デカメロンな性欲……172
その2 苦い初夜……182

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

第9章　シチリア……195
その1　僧院の怪異……196
その2　燃えたぎる血潮……206
その3　パレルモの貴族……218
第10章　マテーラ……231
少年の笑顔……232
第11章　ペルージャ……243
熟年留学のすすめ……244
あとがき……258
解説　玉村豊男……269

スイス
SWISS
ドイツ
GERMANY
第4章
ルガーノ
P87
フランス
FRANCE
オーストリア
AUSTRIA
トリノ
第2章
ミラノ
P35
ベルガモ
第7章
ヴェネト地方・
ブレンタ運河
P157
ブレシア
シルミオーネ
ヴェロナ
ヴィチェンツァ
ジェノヴァ
モナコ
パルマ
第3章
ボローニャ
P75
パドヴァ
第6章
ヴェネツィア
P133
スロヴェニア
SLOVENIA
ルッカ
ピサ
モンテカティーニ
第8章
フィレンツェ
P171
クロアチア
CROATIA
サン・ジミニャーノ
サンマリノ
シエナ
第11章
ペルージャ
P243
コルス島
イタリア
ITALY
アンコーナ
サトゥルニア
アッシジ
テルニ
サッサリ
ヴァチカン市国
ペスカラ
第1章
ローマ
P13
サルデーニャ島
第5章
ナポリ
P101
カリアリ
フォッジア
イスキア島
ポンペイ
カプリ島
ポジターノ
ラヴェッロ
アマルフィ
第10章
マテーラ
P231
地中海
アルベロベッロ
ターラント
パレルモ
コルレオーネ
チュニジア
TUNISIA
カタンザーロ
カルタニセッタ
アグリジェント
第9章
シチリア
P195
メッシーナ
レッジョ・ディ・カラブリア
タオルミーナ
カターニア
シラクーサ
N
0
50
100
150
200
Map Design：白砂昭義（ジェイ・マップ）

シモネッタの本能三昧イタリア紀行

まえがき

このたび、休刊中の「月刊現代」に連載していた紀行文を、加筆の上まとめて出版する運びとなった。

タイトルから想像できるとおり、普通の紀行文とは少し様相を異にしている。なんといっても「本能三昧」である。

仏教によると、人間の本能は五欲のなかに体現されている。おいしいものを食べたい（食欲）、異性と寝たい（性欲）、眠りたい（睡眠欲）という3つのベースに基づき、金持ちになりたい（財欲）と、有名になりたい（名誉欲）という2つの欲望が付随している。禅寺で座禅を組む日本人が、五欲を制する、すなわち欲望をすっかり忘れる境地を目指すというのに、イタリア人は、あるがまま、本能全開で生きている。

自我と本能が他者と思い切りぶつかり、生きるエネルギーが渦巻く国イタリア。

私が、初めてのイタリア旅行に出かけたのは、１９７３年、齢23歳のときだ。「欲望という飛行機」に乗って訪れたイタリアでは、見るもの、聞くもの、すべてが感動の連続だったが、同時に、私を見るイタリア人も感動していた。何せ、私がチネーゼ（中国人）だの、ジャッラ（黄色人種）だのと言われ、奇異の視線に囲まれるくらい、日本人が珍しかった時代なのだ。

海外旅行は限られた人だけに許された贅沢で、私が買った、最も安いアエロフロートでも片道17万５０００円もした。一流企業の初任給が４万円足らずの時代なので、今の料金に換算すると往復で２００万円近い感覚になる。12人もの友人に見送られ、羽田空港を発ったあの日から、早くも40年近い年月が経った。なつかしの古いイタリアから、今のイタリアに至るまで、シモネッタの旅の思い出を紡いで、この本ができあがった。

通訳が本業の私が物を書き始めたのは、30年以上他人の発言ばかり訳してきた反動からだが、それだけではない。仕事で知り合うイタリア人があまりに面白かったせいでもある。とりわけ、彼らのレゾンデートル（存在理由）ともいえるセックスに関して、悲喜こもごもの人間模様をたっぷり見聞きし、面白さをひとりじめするのがもっ

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com